Next
ーネクストー

ネクストインジケーター

実践解説

目次

はじめに.....2

まずはインジケーターの特徴のおさらい..... 2

エントリーの活用方法.....3

マルチタイムフレームで分析する 3

ダウ理論を理解する 5

グランビルの法則を活用する..... 8

エントリーの際に重要なこと.....10

決済の活用方法 13

５分足の次の抵抗に指値を置く 13

ボリンジャーバンドの２σを利用する.....14

Pivot を利用する 15

ナンピンを想定する場合 17

損切りについて.....19

最後に..... 20

はじめに

以前ご覧にいただいた紹介動画に加えて、さらに活用していただくために、実際に使用して利益を出している方法を解説していきます。

インジケーター単体で使用するより、インジケーターをトレードの補助的な形で使いつつ、他のロジックと併用することでさらにパフォーマンスを上げることができますので、ぜひ参考にして活用してみてください。

まずはインジケーターの特徴のおさらい

インジケーターのロジック自体がトレンドをフォローする形でサインが出ます。

特徴１　移動平均線を使ってトレンドを確認

特徴２　トレンドの確認は４時間足と日脚を使用

特徴３　RSI やストキャスティクス押し目や戻りを確認

トレンドフォロー系のロジックと
併用すると相性が良い

ですので、トレンドフォロー系のロジックと相性がよく、組み合わせて使用しています。

特に難しいことはしてなく、実際にエントリー、決済、損切りに使用している方法はとても簡単ですので、１つずつ紹介していきます。

エントリーの活用方法

エントリーの活用には主に３つを使用しています。
どのように使用しているか実際に例を参考に解説していきます。

エントリーの活用方法１

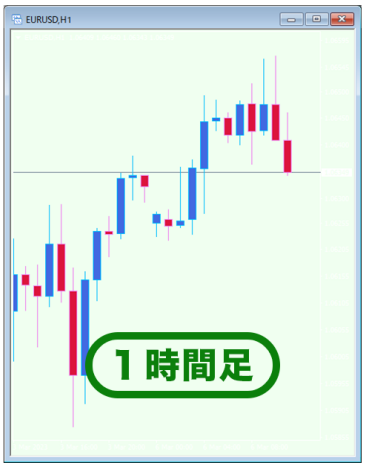
マルチタイムフレームで分析する

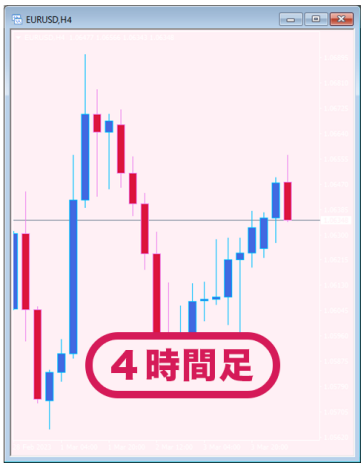
マルチタイムフレームというのは**「複数の時間足を使用することです」**。

このインジケーターでは基本的に５分足で稼働させるのが基本となりまして、インジケーター自体も日足～４時間足を使用してしるので、すでにマルチタイムフレームで分析しています。

ただ、実際に自分の目で見て確認することで、より精度が上がります。

実際に目で確認しているのはインジケーターをセットしている**５分足**の他に、
１時間足と**４時間足**になります。





インジケーターがサインを出したらパソコンに向かい４時間足を確認して、その後１時間足を確認してから、形が良ければエントリーする流れとなります。

実際のパソコンで表示しているチャート画面がこちらになります。

サインが出たあとの流れ

1. 一番左のチャートでサインがでた通貨ペアの**４時間足でトレンド**を確認
2. 一番左のチャートを**１時間足に切り替えてトレンドとタイミング**を確認
3. 改めて**５分足で決済ポイントを考えて**エントリー

という流れでエントリーしていきます。

４時間足と１時間足のトレンドについて、何を確認してどのように分析しているのか。

それが２つ目の方法になります。

エントリーの活用方法２

ダウ理論を理解する

ダウ理論は有名ですのですでにご存知かもしれませんが、ダウ理論というのはトレンドの法則についての理論になります。

ダウ理論

法則①：価格はすべての事象を織り込む

法則②：トレンドは３種類ある

法則③：トレンドは３段階ある

法則④：平均は相互に確認される

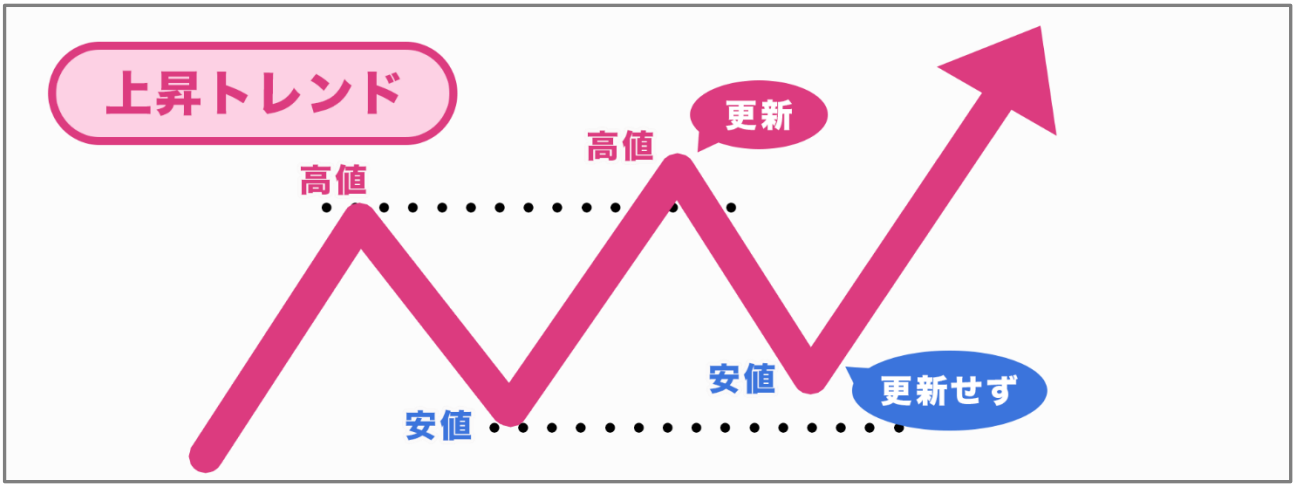
法則⑤：トレンドは出来高でも確認できる

法則⑥：トレンドは明確な転換サインが出るまで続く

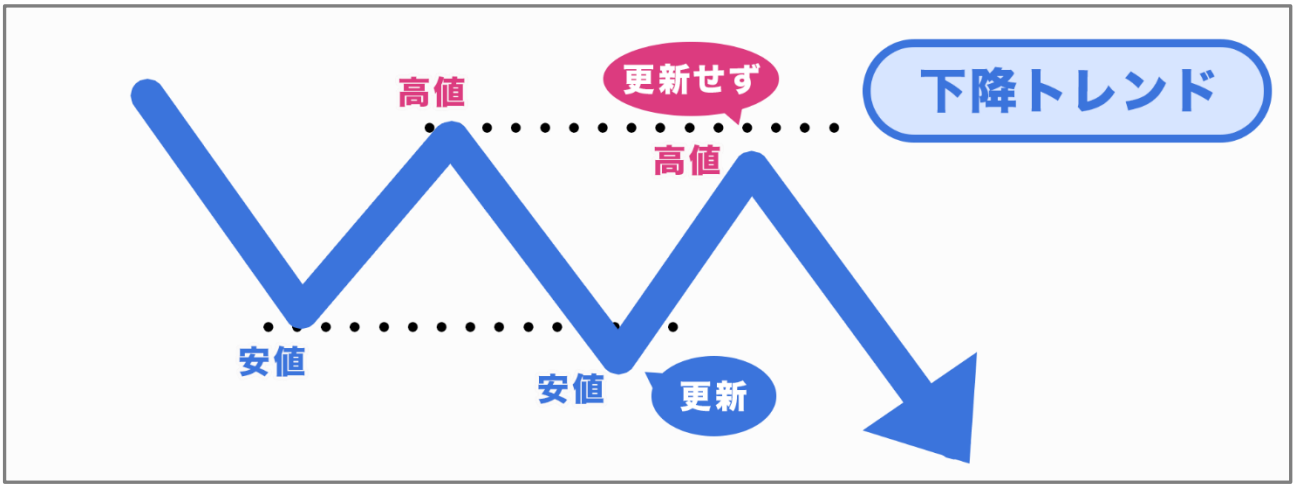
文字だけだと難しく感じるかもしれませんが、インジケーターを使用する上で重要なのが**「法則⑥：トレンドは明確な転換サインが出るまで続く」**になります。

そもそもトレンドというのは何か？
まずはトレンドについて詳しく説明します。

まず下の画像のようにチャートが**「高値と安値が切り上げている状態」**が**「上昇トレンド」**になります。

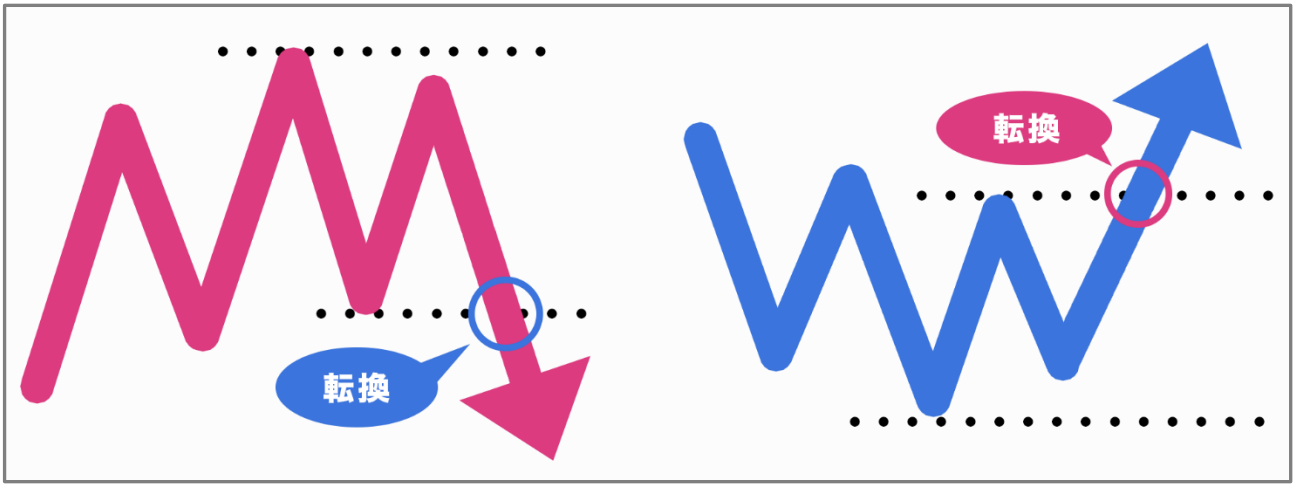


逆に下の画像のように**「高値と安値が切り下げている状態」**が**「下降トレンド」**になります。



そして、ダウ理論の法則６にあるように、トレンドというのは**「明確な転換サインが出るまで続く」**という法則があります。

下の画像のように上昇トレンドや下降トレンドが、直近高値や安値を更新できずに割り込んだ状態になることでトレンドが崩れたと判断することができます。



この法則を利用してサインが出た際に４時間足や１時間足を確認しサインの出た方向に

- **トレンドが形成されているか**
- **トレンドが崩れていないか**

を確認しています。

４時間足や１時間足でトレンドを確認するのはこれだけです。

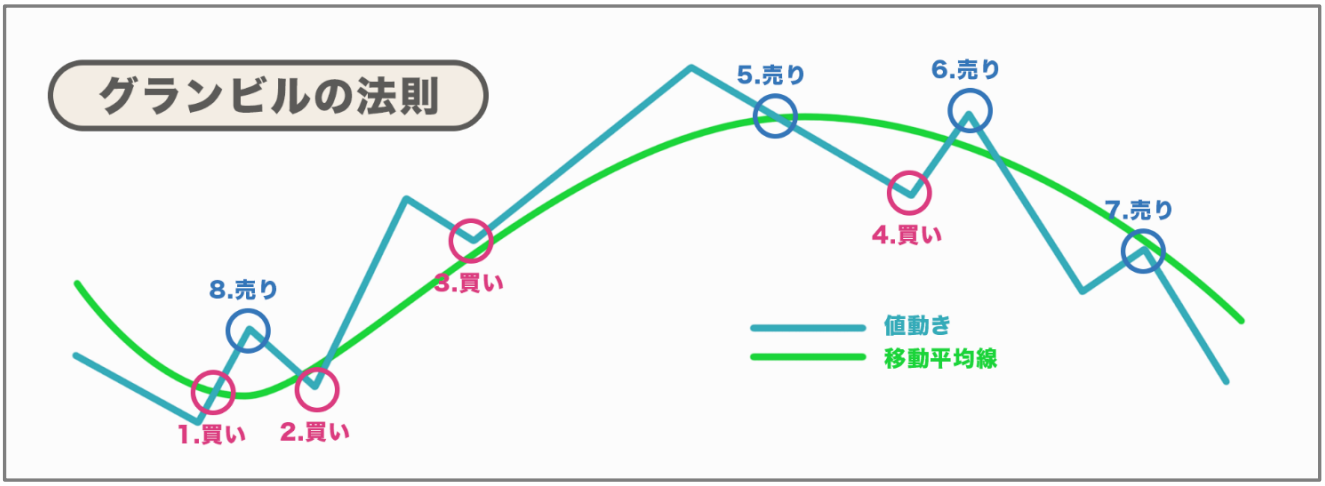
基本的にはインジケーターが分析してサインを出しているので、あとは目でトレンドを確認するだけでかなり精度が上がります。

さらに精度を上げるために１時間足で見ているタイミングですが、これについては３つ目の方法になります。

エントリーの活用方法３

グランビルの法則を活用する

グランビルの法則も有名ですのでご存知かもしれませんが、まずはグランビルの法則について説明します。



買いサイン	
サイン１	上向きまたは横ばいの移動平均線を価格が下から上へ抜けた場合
サイン２	上向きの移動平均線を価格が一時下抜けた後に再度上に抜けた場合
サイン３	上向きの移動平均線の近くまで価格が下落し移動平均線を下抜けることなく再度上昇した場合
サイン４	価格が下向きの移動平均線の下に大きく乖離した場合

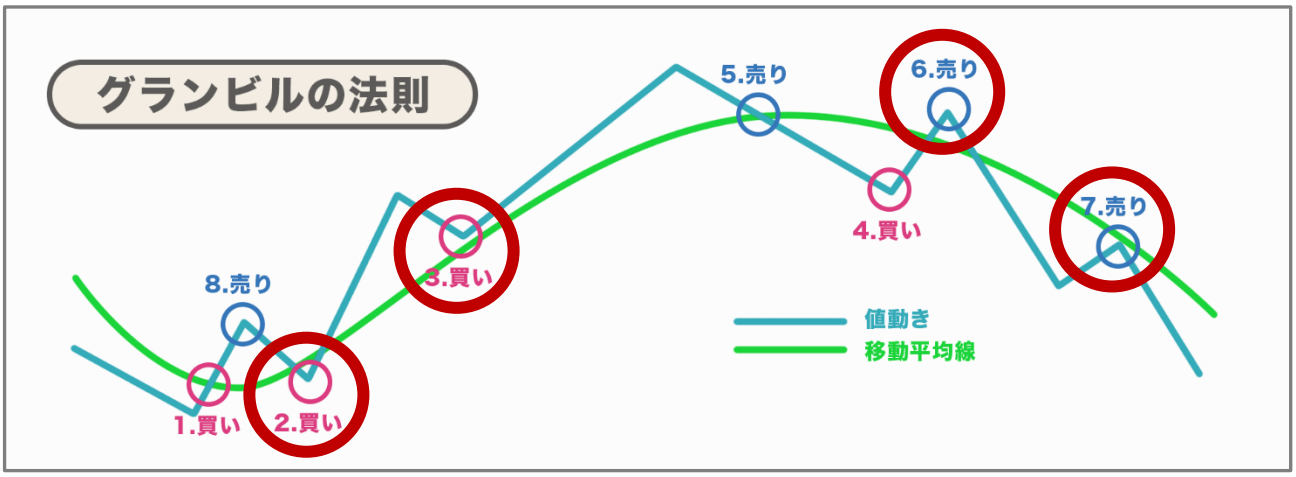
売りサイン	
サイン５	上昇から横ばいまたは下向きに転じた移動平均線を価格が上から下に抜けた場合
サイン６	下向きの移動平均線を価格が一時的に上抜けた場合
サイン７	下向きの移動平均線の近くまで価格が上昇し移動平均線を上抜けることなく再度下落した場合
サイン８	価格が上向きの移動平均線の上に大きく乖離した場合

©2023 Next Systems

基本的にグランビルの法則は、日足に 200 日移動平均線を使用するのが一般的ですが、**１時間足や４時間足の期間を 20 に設定した SMA（単純移動平均線）**を表示して使用しています。

理由としては、今ではかなり広く使用されているボリンジャーバンドの真ん中の線が期間 20 の SMA という設定がデフォルトになっているブローカーがほとんどで 20SMA が意識される世界的に多く、**「20SMA でも十分にグランビルの法則が使用できる」**というからというのが理由になります。

このインジケーターは押し目や戻りの際にサインが出ますので



- 買いサイン２
- 買いサイン３
- 売りサイン６
- 売りサイン７

この４つの**移動平均線で反発した形のサイン**を使用していまして、この形が１時間足で出ていればエントリーをしていきます。

最初は難しく感じるかもしれませんが、慣れてしまえば難しいことをしているわけではありませので、はじめはデモトレードなどで得意なパターンや微妙なパターンなどを検証するのが良いかと思います。

エントリーの際に重要なこと

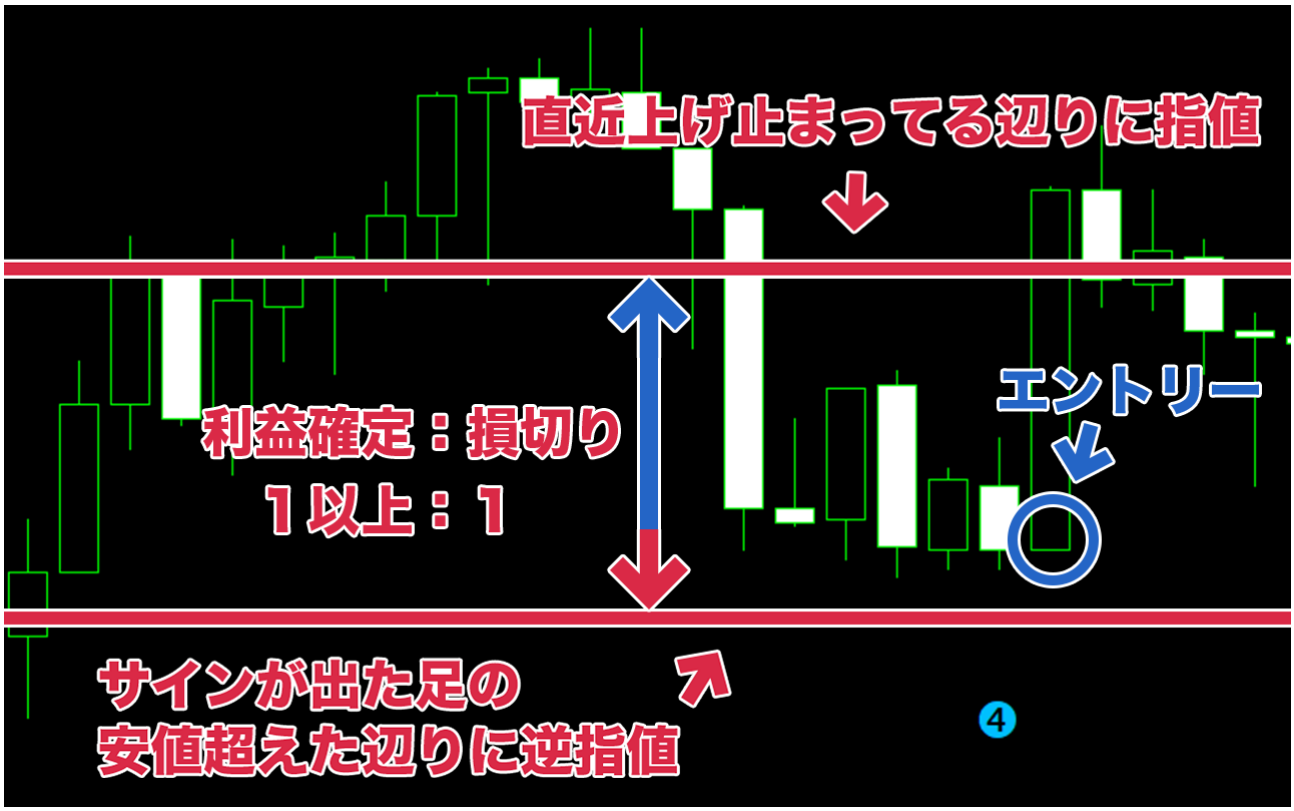
エントリーする際に重要なことは**「エントリーする時に決済についても考える」**ということです。

特に、**逆行した際に絶対超えたら損切りするポイント**というものを予め考えておかなければ、大事な資金が一回のトレードでなくなってしまうという可能性があります。

これは使い方の動画の際にも説明しましたが、

損切りポイント：利益確定ポイント　＝　１：１以上

になっているポイントでエントリーするように心がけることで、無理のないトレードができるようになります。



これはリスクリワード、またはペイオフレシオや損益率と呼ばれる、トレードにおいては非常に大事なものになります。

よく勘違いされがちなのが、リスクリワードを単体で考えてしまうことです。

これは単体で考えても、あまり意味がありません。

リスクリワードは勝率とセットで考えて、**破産確率**というもの見ることが非常に重要です。

「バルサラの破産確率表」がもっとも有名ですので、こちらの表で解説していきます。

バルサラの破産確率表

		勝率									
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
損益率	0.2	100	100	100	100	100	100	98	72.2	5.8	0
	0.4	100	100	100	100	99.9	95	58.7	6.5	0	0
	0.6	100	100	100	99.9	96.1	64.1	12.4	0.1	0	0
	0.8	100	100	100	98.8	78.4	26.1	1.3	0	0	0
	1	100	100	99.9	92.6	50	7.4	0.1	0	0	0
	1.2	100	100	99.1	78.4	26	1.8	0	0	0	0
	1.4	100	100	96.4	59.5	11.9	0.4	0	0	0	0
	1.6	100	99.9	90.4	41.2	5.1	0.1	0	0	0	0
	1.8	100	99.7	80.1	26.8	2.2	0	0	0	0	0
	2	100	99.1	69.6	16.8	0.9	0	0	0	0	0
	2.2	100	97.1	57.6	10.3	0.4	0	0	0	0	0
	2.4	100	95.2	46.4	6.3	0.2	0	0	0	0	0
	2.6	100	91.5	36.6	3.9	0.1	0	0	0	0	0
	2.8	100	86.8	28.5	2.4	0	0	0	0	0	0
	3	100	81.2	22	1.5	0	0	0	0	0	0

例えば、損失：利益が 1 ：0.2 だったとします。

	0.2	100	100	100	100	100	100	98	72.2	5.8	0

その場合は、勝率が 90%以上でようやく破産確率は 5.8%ということになります。

たとえ勝率が 80%以上とかなりの高勝率をキープしていたとしても、72%という高い確率で破産してしまいます。

90%以上の勝率というプロでも難しい勝率をキープしなければいけません。

逆に、損失：利益が 1 ： 3 と高いリスクリワードだったとしても勝率が 20%以下だと 81%以上の確率では破産してしまいます。

3	100	81.2	22	1.5	0	0	0	0	0	0

もし勝率が 30%だったとしても破産確率は 22%なので、あまり安心とは言えません。

もし損失：利益が 1：1 以上だった場合は、勝率は 60～70%くらいあれば、割と安全なトレードと言えるのかなと思います。

1	100	100	99.9	92.6	50	7.4	0.1	0	0	0

このように、リスクリワード（損益率）は勝率とセットにして、破産確率というものを見るのが正しい考え方ですので、それぞれを単体で考えず、セットで考えるように意識してみてください。

余談ですが、多くの教材や投資のスクールで勝率ではなくリスクリワードのコントロールする事ばかりが意識するように言われているのかというと、勝率のコントロールは経験を積んでいかなければコントロールするのは難しいです。

ですが、**リスクリワードは人の手で完全にコントロールすることができる**からというのが理由になります。

単純な話、エントリーしたポイントから何も考えずに指値を 30pips、逆指値を 10pips の場所に置くだけでリスクリワードは 1： 3 にすることができます。

まずはこういった完全にコントロールできるところからトレードをはじめて、経験を積んで勝率の良かったポイントと悪かったポイントを検証していくことで効率的に安全なトレードができるようになっていくという訳です。

決済の活用方法

決済については人それぞれ色々なパターンなどあるかと思いますので、慣れ親しんだ方法で決済していただいても良いかと思います。

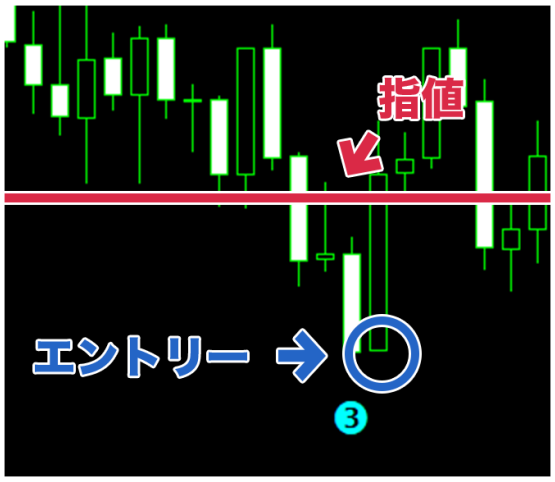
ここでは実際に私が使用している方法は今では利確や損切りもあわせて主に５つの方法を使っていますので、１つずつ紹介しています。

決済の活用方法１　利益確定

５分足の次の抵抗に指値を置く

これはもっとも単純な方法で、一番使っている方法になります。

エントリーサインが出た近辺の抑えられているポイントや支えられたポイントに指値を置いて放置します。



一応、絶対に超えたくない損切りポイントも決めておき、逆指値を置いておきますが、数分～相場の勢いによっては１～２時間置いてみて、どうにも指値にかかりそうになければ逆指値まで待たずに手動で手仕舞いすることもあります。

チャートを見る余裕がある場合は指値を置かず、ある程度伸びたら逆指値をエントリーしたポイント、いわゆる建値に逆指値を置いて損失が出ないようにして利益を伸ばすこともあります。

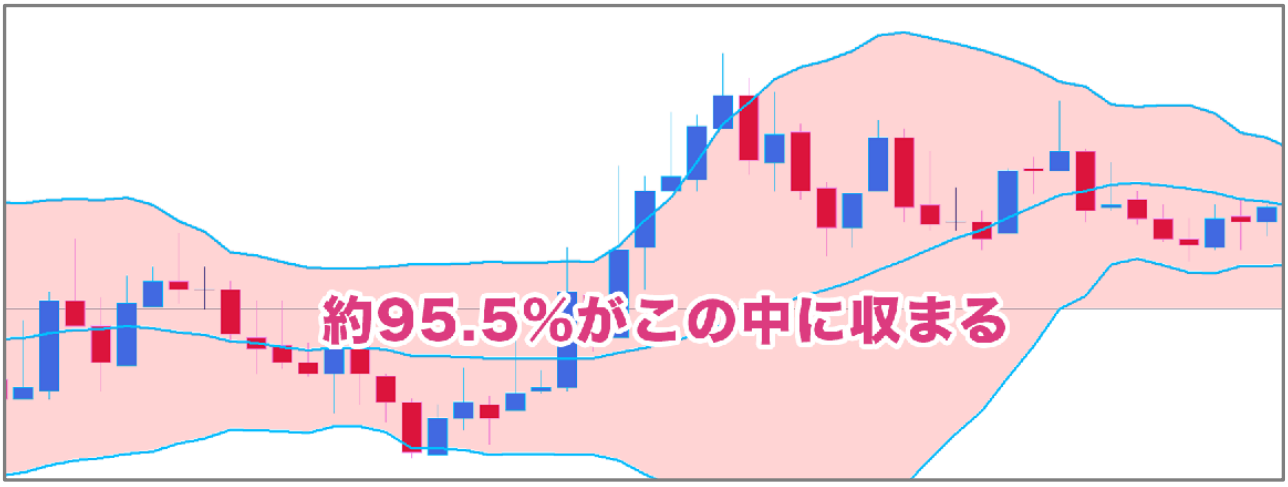
決済の活用方法２　利益確定

ボリンジャーバンドの２σを利用する

これは割りとチャートを見ていないといけないので、チャートをちょこちょこ見ていられる余裕のある時に使っている方法になります。

特に利益を伸ばす際に有効な方法なので、余裕があればぜひ試してみてください。

ボリンジャーバンドの特性として、**＋２σ～-２σの中には終値の約 95.5%が収まる**と言われています



この２σを超えると戻ろうとする力が強くなりますので、２σに達したら決済してしまうのも一つの手かなと思います。

ボリンジャーバンドを使用する際は５分足で使うことが多く、エントリーした際に５分足の２σを超えたところあたりに指値を置いておき、５分おきにチャートを確認して、更新された２σの超えたあたりに指値を移動させていきます。

相場に勢いがある場合は２σを超えても、どんどん価格を更新していく場合もあります。

もしチャートを見ている余裕がある時は価格の更新を追って利益を伸ばす方法もありかと思います。

その場合は一旦２σを超えてから戻ってきたところで決済してあげれば良い感じで利益を伸ばすことができます。

決済の活用方法３　利益確定＆損切り

Pivot を利用する

Pivot というのは MT4 にデフォルトでは入っていないインジケーターになるので、MT4 に取り込む作業があります。

ただ、この Pivot は世界中で使用している方が多い人気のインジケーターになります。

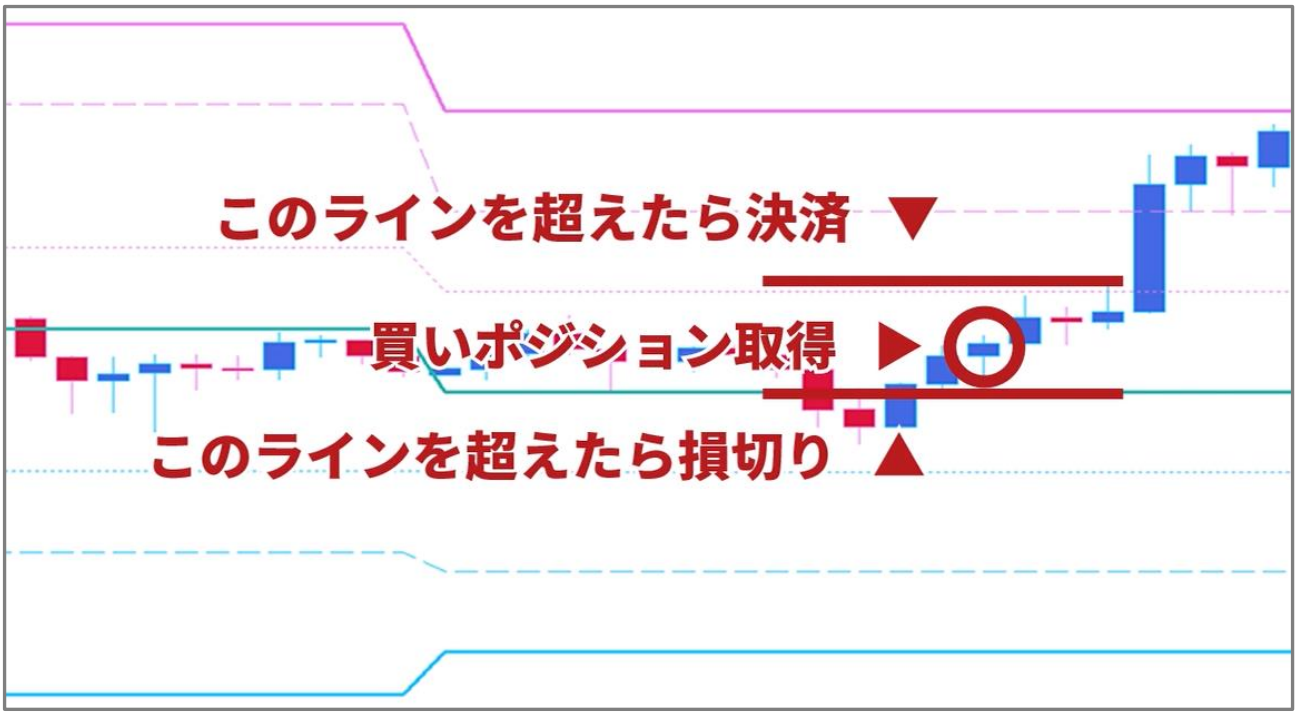
前日の高値・安値・終値からピボットポイント値というのを基準値として、６つの数値が算出されチャートに表示されます。

このラインを抵抗として見ている方が非常に多く、利益確定や損切りポイントとして数多くの方に愛用されています。

このインジケーターは調べたらすぐにダウンロードできるのですが、私が使用している Pivot のインジケーターをダウンロードできるようにしておきますので、ぜひこちらも使ってみてください。

使い方は簡単で

- 次の Pivot のラインを超えたら利益確定の決済
- 逆行した場合は Pivot ラインを超えたら損切り



という感じで使用するだけです。

この Pivot は Next インジケーターとの組み合わせ以外でも非常に使いやすいので、ぜひ参考にしてみてください。

決済の活用方法４ ナンピン

ナンピンを想定する場合

頻繁に使用するわけではありませんが、主に①～②のサインが出た際に使用することが多いです。

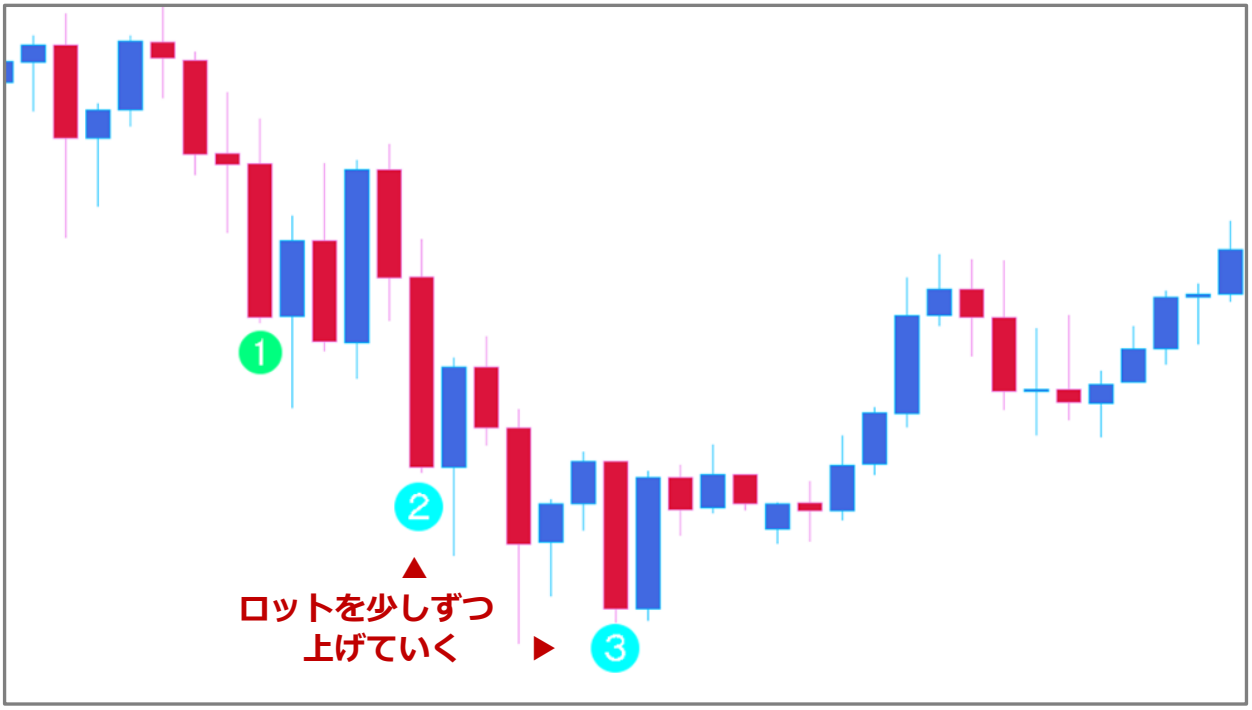
① ～②のサインが出た際は、短期足での戻りを確認したサインになります

この場合にエントリーする時は、少しロットを下げてナンピンを想定したエントリーをします。

この場合は超えたら損切りするポイントを１時間足か４時間足で予め決めておきます。

そのポイントに達するまでサイン確定するたびにナンピンを仕掛けていきます。

サインの数字が大きくなった場合は１つ目のポジションよりロットを上げてナンピンします。



１つ目のポジションがマイナス決済になっても２つ目、３つ目のポジションと合わせてプラスになるポイントに指値を動かしていきます。

ナンピンと合わせてトータルでプラスになれば決済します。

ナンピンを想定する場合は初めからロットが大きすぎると、とんでもない損失を抱えてしまいますのでナンピン想定でエントリーする場合は５分の１くらいに抑えて１つ目のポジションを持つようにしてください。

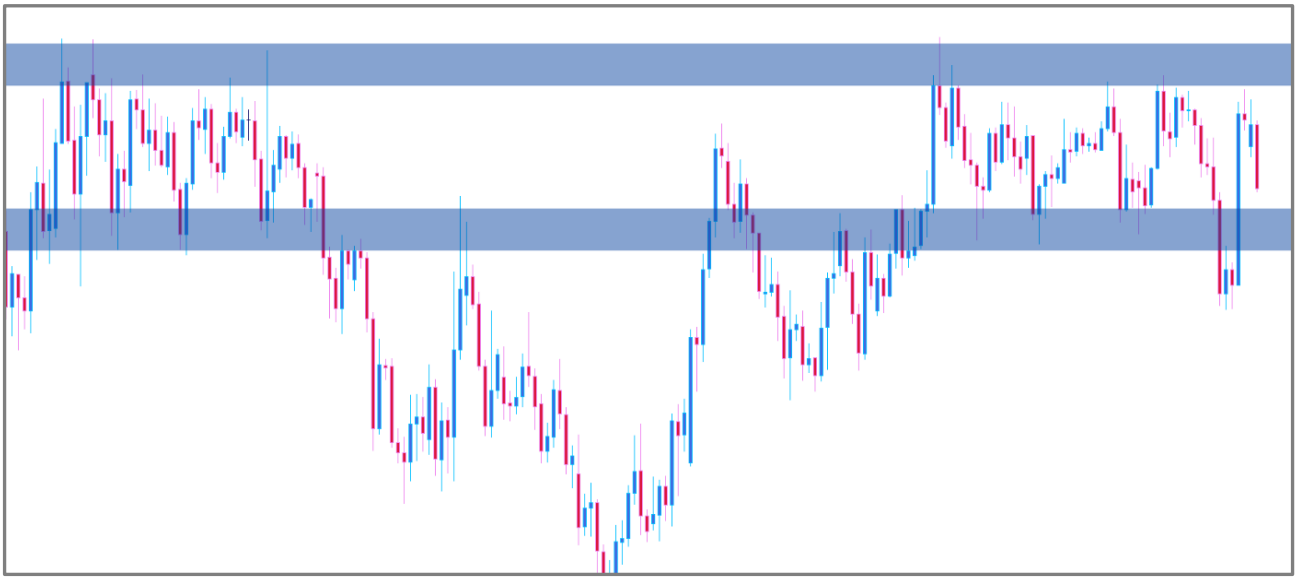
決済の活用方法５　損切り

損切りについて

損切りはエントリーする際に予め決めるようにしてください。

超えたら際限なく落ちてしまいそうというポイントを見つけるのは少し大変かもしれません。

ただ、過去何度も止められている抵抗がありそうな箇所を抵抗帯として機能することが多いので、線で見るのではなく帯で見るようにして、その下を超えたら損切りという形で意識すればすぐに慣れてくると思います。



損切りはとても大事ですので想定と違う動きをしたらマイナス分は必要経費として損切りしてしまいましょう。

損切りはエントリーする際に必ず想定するようにしてください。

最後に

私はチャートを分析するのは好きですが、ずっと張り付いてチャートを見ているのが実はとても嫌いです（苦笑）

せっかく投資をしているのに労働をしている気がしてしまうので、チャートに張り付いた分だけ稼げないとモヤッとした気持ちで眠れなくなってしまうことがありました。。。

インジケーターを開発した際も**「より効率的にトレードをしたい」**と思い開発しました。

もちろん、今でもインジケーターを使ってトレードすることもあります。

ただ、、、
実は最近は毎日という訳ではありません。

私自身かなり横着な性格ということもありまして、インジケーターだけに飽き足らず、さらに効率的よくトレードする方法はないかと色々調べていく中で、気づけば自動売買システムを開発し始めていました。

今では自動売買システムの開発の方に力を入れていまして、主に自動売買システムに任せたトレードが主軸となり、手動でトレードするのは空いた時間にちょこちょこトレードするという感じです。

数多くの検証を繰り返し、数多くの失敗作を生み出して、数年単位のフォワードテストを経て成功品となったのが

自動売買システム「Next」

になります。

今でも開発は進めていまして調子の良いものはいくつかありますが、コロナを始めとしたここ数年の荒れた相場でも、**我関せずと４年以上の間ずっと実績を作り続けている**今では一番の自信作になります。

この Next は開発に相当な時間と費用がかかってしまったので、無料で提供する訳にはいきませんが、紹介ページもご覧いただいて、Next も使用するか検討していただけるととても嬉しく思います。

インジケーターで楽にトレードしつつ、自動売買システムで楽に投資していただき、ぜひダブルで稼いでみてくださいね。

それではインジケーターの解説は以上となります。

最後までご覧いただきありがとうございました！

FX でしっかり稼いでいただけることを心から願っております。